

『身近にある人権侵害』

日野中学校 2年 橋本 穂香

あなたは、日本が差別のない国だと思いますか。実は日本にもたくさんの差別があります。女性差別、子どもの人権問題、高齢者の人権問題、障害のある人の人権問題など、あなたのすぐそばにも差別があるだろうし、あなたが気づかないうちに他の人の人権を否定しているのかもしれませんが。私の身近にあった例を紹介します。

ある日、友達と話しているときに、「Aちゃんって少し変だよな。」とBちゃんが話しました。

「Aちゃんの変わってる度が100%だとしたら、私は30%だよな。Aちゃんの変わってる度が高いから気が合わないし話がかみ合わないんだよね。」

と話していました。そのBちゃんは、この話をCちゃんにもしていて、

「あなたも少し変わってるから40%くらいかな。」

と話していました。その時に私は、「人間はそれぞれの個性があっていいし、決して同じ人間はいないのにな…。」と思いました。だから自分と少し違うところがある人に対して、変だから喋らないとか近寄らないとかそういう言動をするのではなく、自分も周りの人たちもそれぞれ違うということを理解して、たとえ自分と違うところがあってもお互いに理解しようとしてほしいと思いました。

また、こんなこともありました。

私が授業を受けているときに、また、こんなこともありました。

隣の席のDくんが、前の席のEくんに向かって悪口を言って馬鹿にしていました。さらに、一度行った悪口を思い出して一人で笑ったり、Eくんのしぐさを見てわざわざ周りの人に伝えて、その人たちと馬鹿にしたりしていました。私は、この出来事を隣で見ていて、もし自分が言われていたらと思うと、怖くなりました。ここで思ったことは、悪口を言うことはもちろん悪いが、悪口を小声で本人に聞こえるか聞こえないかくらいの大きさで言ったり、そのことをずっと言い続けたりすることはさらに悪い、ということです。また、そのことについてDくんは、自分が悪いと思っていなかったし、声が大きいことにも気づいていなくて、静かな授業中に悪口を言っていたので、意外と周りに聞こえていました。Dくんのこの行為は、悪口を言われているEくんの人権を侵害しているばかりか、授業にみんなが集中できないことで、周りの生徒の授業妨害になっていたのです。

私が挙げた2つの例のように、私たちの生活の中にはたくさんの人権侵害があって、私も意図せずに友達の人権を否定してしまうことがあるかもしれません。1つ目の例のように、自分と考え方や言動、容姿が違ってても、理解することを大切にしなければいけません。また、自分と違うからと言って2つ目の例のよ

うに馬鹿にしたり、悪口をいったりする行為は、立派な人権侵害になるので、絶対にやめるべきです。ですが、そうは言っても

「あの人は、自分とは違うな」

とってしまうことはあると思います。そういう時は、そのことを馬鹿にしたりせずに理解しようとし、話をしてみたらどうでしょうか。あなたも気づかないうちに人権を否定してしまっているかもしれません。みんながこのことについて真剣に考え、気をつけるようになるといいなと思います。

これまで話してきたように、些細な人権侵害や差別などは、日常にあふれています。悪口や何気ない一言でも、相手を深く傷つけることはあると思うし、小さい一言でも、毎日繰り返され、少しずつ積み重なれば、本当に最悪の場合には、その人の命を奪ってしまう結果にもなります。

私は、差別や偏見をなくしていくために、私たち一人ひとりの考え方が変わらなければいけないと思います。「あの子の変だから」ではなく、自分も相手も周りの人もみんなそれぞれ違うし、個性を持っている、と考えることで分かり合うことができるのではないのでしょうか。「変だから関わらない」ではなくて、自分から積極的に関わろうとすることで、少しずつでもその人を理解し、考え方が変わっていったほしいと思います。そうすれば、いじめや、それが原因で命を失う人、人種差別、人権侵害が亡くなると思います。